

■（８３）広告だって時代を映すニュースです

ポストから朝刊を持ってきた妻が落胆していた。記事ではない。韓流スターの広告が折り込まれていなかったからだ。新聞４頁をつなげた大型版で等身大写真が印刷されているはずだった。配布対象は首都圏、名古屋、関西の一部。テレビで早朝から話題だった。

新聞広告は記事と並んで時代を映す鏡だ。そこから見えてくるのは、人気や話題の商品だけではない。企業の不祥事が明るみに出ると「謝罪広告」が載る。欠陥商品を知らせるためのリコール情報もある。最近はあまり見かけないが、過去には家出人を捜す欄や同窓会の参加を呼びかける小欄もあった。インターネットや情報誌が発達していなかったころは、映画を見に行くにも、新聞広告で上映時間や映画館を選んでいた。加えて、大きな特徴は、新聞縮刷版として記事と一緒に保存されることだろう。子どもたちだって過去にさかのぼって新聞をめくっていけば、自分ならではの「流行史」を書くことができる。

広告費でテレビに次いで２位だった新聞が、ネットに抜かれたのは２００９年。そんなライバルをも巻き込んだ今回の企画広告で、実感したのは「時代は今も韓流」だった。

（山）